

人間の認知の個人差の計測 — 認知傾向から情報理解を類型化する —

技術の特徴

- ・人間の認知に存在する個人差を測定する。
- ・その個人差からリスクなどの情報理解の傾向を類型化できる可能性を示した。
- ・ステークホルダーの新たな分類方法として活用できる可能性がある。

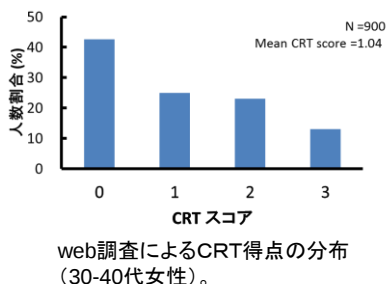
研究の内容

人間の思考には2つのシステムが併存。
両者は状況によって切り替えられるが、その重みづけには個人差がある。

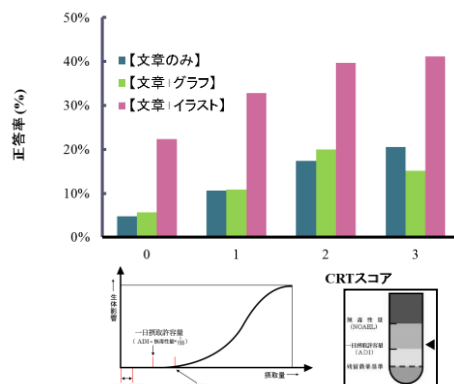
直感的思考
System 1
fast

分析的思考
System 2
slow

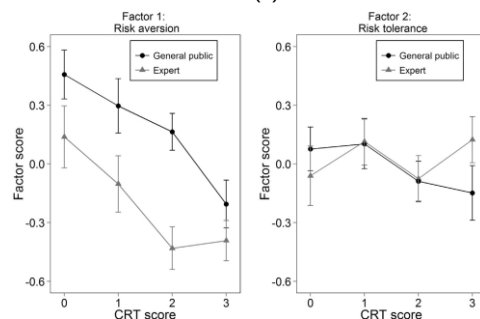
3問の設問からなる認知傾向検査(CRT)の得点は分析的思考の程度を反映していると考えられている。



CRTスコアは説明表示に基づく農業情報の理解や放射線汚染に対する認識をよく説明する。



架空の食品への残留農薬量とリスクの程度の認識の正答率とCRT得点の関係。グラフやイラストの並記やCRT得点で正答率が異なる(1)。



放射性物質の基準値を超えた食品がでた地域の食品に対する態度は2因子で説明され、健康や食品の専門職などの職業やCRT得点によってリスク嫌悪の程度が変化する(2)。

今後の展開

- ・認知傾向検査の得点と食品の情報理解や印象がよく説明できる。
- ・web調査の結果、対象者の65%程度が分析的思考得点が1点未満である。
- ・消費者に対する情報開示は、このような認知傾向の分布を考慮して作成する必要がある。

参 考

1. H Honda, M Ogawa, T Murakoshi, T Masuda, K Utsumi, S Park, A Kimura, D Nei, Y Wada (2015). *Food Policy*, **55**, 33-40.
2. H Honda, M Ogawa, T Murakoshi, T Masuda, K Utsumi, D Nei, Y Wada (2015). *Food Quality and Preference*, **46**, 119-125.
3. 松原・杉山・村越・増田・本田・和田 (in press). *映像情報メディア学会誌*.